

平成30年度 第3回 全校研究会報告

日時 平成30年 12月 25日(火) 9:30~16:30

研究協力者 大和大学 教育学部

教授 落合 俊郎 氏

立命館大学 産業社会学部

教授 青山 芳文 氏

第3回の全校研究会では、前半は各学部の授業実践の報告を行い、立命館大学教授 青山芳文様より助言をいただきました。後半には、「障害のある人が卒業後も幸せに生きる力を育む授業とは。障害のある人の社会貢献とは。」というテーマで、府立宇治支援学校 教諭 相馬美加様、社会福祉法人あらくさ福祉センター長 濱野亜希子様、大和大学教授 落合俊郎様より御講演をいただきました。その後、「新学習指導要領の考え方や乙訓という地域性を基盤に、本校でつけた力を卒業後も自分らしく、自分なりに社会貢献しながら、主体的に幸せに生きるための力を育む授業とは」というテーマで6つのグループに分かれて意見交流をしました。

小学部の報告 研究テーマ「小学部の子ども達の実態や実践の交流を深め、子どもの主体性について考え、授業の充実を図る。」

◎遊びの指導 「いっぱい たべて！」

“することがわかって自分で動くこと”を重点において単元を計画しました。さつまいもを授業の大きなテーマとし、畑でさつまいもを育てる、さつまいもの教材を児童が作る、大きな芋を抜く等の活動をし、学校祭に向けても劇練習に取り組み、最後は調理をしました。授業の始まりの工夫や活動のバリエーションを増やすことで、期待感をもって授業に臨む児童の姿が見られたり、個に応じた活動量が保障され、意欲的に活動したりすることができました。繰り返しの学習を進めることで、場所が変わっても自信をもって力を発揮することができました。



◎生活単元学習 「5組のうどん屋さん」

学級の一人一人が活躍できるように授業づくりを行いました。自分の役割を果たすことで達成感につなげる、人への意識の広がりを主な単元の目標に設定し授業を進めました。教材を工夫することで、友達の活動の様子を見て、期待感をもつ姿が見られたり、繰り返しの活動を設定することで、自信をもって取り組もうとする姿勢が見られたりする等、児童一人一人が主体的に活動に向かう姿につながりました。



◎遊びの指導 「～劇遊びをしよう～『西遊記』」

児童のやる気を引き出す、見てわかる、やりたくなる活動、ということを中心にしながら、児童が主体的に活動することを目標に単元設定をしました。劇で使用する衣装を自分たちで手作りし、学校祭に向けて招待状作りをすることで、期待感をもって臨むことができました。教材の工夫や児童同士で見本になる場を設定することで、次にすることがわかって動くことができ、児童の主体的な姿が多く見られました。また、一人ではできない内容を設定することで友達と協力して活動することができました。



◆学部研究会では、児童の日頃の姿から、どのような子どもに育てたいのかを再度考えることで目標と評価の一体化につながることを再確認しました。また、「18歳になって自分らしく主体的に生きるために」をイメージするなかで、小学部ではどのような力を育てることが大切なのかを考え、「身体づくり、生活づくり」「学習」「社会生活、集団生活」「人との関係、コミュニケーション」のテーマを導き出しました。学校が子ども達にとっての社会となる小学部において、卒業後、地域社会で生活するにはどういった取組が必要なのかを考えました。自己肯定感、安心感を土台に、新しい時代に必要となる力を育てていくことを報告しました。

中学部の報告

研究テーマ「中学部らしさを基盤とした、主体的・対話的で深い学びのある授業実践」

◎生活単元学習 「ケロッチャ！！」

繰り返し取り組むことで見通しをもち、自ら働きかけることで変化や結果が表れるという期待感をもって活動することや、勝敗のある取組の雰囲気を楽しみ、得点できた時に褒められて「嬉しい」「もっとしたい」という気持ちを仕草や表情で表現することを単元の目標に授業を進めました。「握る」「引っ張る」「入れる」「眼で追う」等、刺激と自分の活動の連動性のある内容や、自分の持っている力を生かせる設定、楽しい雰囲気のかな



で、一人一人が主役になる設定の工夫により、生徒が活動に対して意欲的になる姿が見られました。

◎生活単元学習「役に立とう」

「他者への貢献による達成感と自信」ということをテーマに単元設定を行いました。一人でやることの達成感や充実感、「やってみる」気持ちの育ち、主体的な行動などの前単元の姿から、人と関わる楽しさや、依頼に応えることによる役立ち感や自己肯定感の高まりを期待し、授業を計画しました。ユニホーム作りから、清掃道具の調達、清掃の練習・依頼・清掃活動を自分達で行うことで、清掃の技術が身に付き、依頼を成し遂げることで感謝され、またやってみよう、やってみようという気持ちが養われました。



◎生活単元学習「友達の家に行こう」

「人と社会と関わるなかで主体的に生きる」ということをテーマに単元設定、授業づくりを行いました。公共交通機関を利用して地域へ出かける、買い物学習でのお金の支払いの活動を前単元で経験したことから、本単元では、地域を知り、地域に出て行こうとする気持ちを育み、自分の決めたことに自信をもってやりきる力をつけることを期待しました。単元計画では、ipadでの道のり調べ、行程決定の話合い活動、個々のリーダーシップの発揮場面の設定や振り返り等を行いました。生徒の姿の変容としては、調べ学習や計画、内容の工夫により、自信をもって主体的に行動する姿が多く見られました。



◎生活単元学習「メモ帳作り」

「就労に向けて～中学部からできること～」をテーマに単元設定を行いました。「製品作りから卒業後の仕事のイメージをもつ」「作業態度・マナーを身に付ける」「もの作りの喜びを感じる」こと等をねらいに、自分達へ・家族へ・学部内の仲間へ・学校内の先生へ・学校外の方へとメモ帳の注文先を広げていきました。授業をとおして、自分の作業に責任をもち、わからないことや判断が難しいことは相談するようになったり、校外に出た時のマナーについては、どの生徒も今もっている力を発揮しようと意識することができたりするなど、少しずつ変化が見られました。



◆中学部では、授業改善シートを作成していく過程で、目標と評価の一体化や教科等横断的な視点を意識して授業づくりを進めていくことができました。また、小学部でどのような力をつけてきたのかを把握した上で、その力を中学部で更に充実させて高等部へつないでいく必要があることを話し合いました。小中高、地域社会への学びの連続性をより意識した授業づくりをめざしていくことを確認しました。

高等部の報告

研究テーマ「ねらいと適切な手立てを明らかにした授業作り」

◎生活単元学習「1組ポッチャ大会」

「健康な身体作りと体力の維持・増進」「伝えたい相手を意識して、自分から表情や声・言葉等を使って伝えようとする力を育てる」「余暇につなげる」ことを単元の目標に設定しました。以前は、指導者が投げる位置や角度を生徒と一緒に考え、ランプの調整においても左右の調整のみにとどまっていたのですが、繰り返しの学習のなかで、投げる位置や角度を生徒自身が考え、自己決定できるようになりました。また、左右の調整だけでなく、ランプの調整では、高低を理解した上で調整することができるようになるなど、授業改善をとおして生徒の主体的な活動がたくさん見られました。



◎数学「割り勘の仕方について」

「作る物から材料と量を想定し、買うものの合計額を出すことができる。(たし算、かけ算)」、「合計額と人数から一人当たりの負担額を出し、余りをどう処理したらよいかかわかる。(わり算)」を単元の目標におきながら、授業を進めました。各次での学習活動において、ICTの活用や校外学習や行事と関連させて取り組む等、様々な視点を意識した学習を繰り返すことにより、数学に対しての苦手意識がある生徒も意欲的に取り組むことができました。



◎作業学習「窯業：干支の小皿づくり」

作業学習「窯業」では、通年で授業の基盤づくりや雰囲気づくりを意識し授業を展開してきました。働く基礎を培い、学校と卒業後の職場とのギャップをできるだけなくし、社会へとスムーズに移行させたいということから、作業日誌の改善、授業規律の継続的な指導、道具確認票の使用、製作出来高表の使用などの改善を行いました。生徒が成果と課題を明らかにすることで次の目標を定められ、課題を意識し取り組める等 PDCA サイクルが



整いました。また、全体的に落ち着いて作業に取り組むことができ、
道具確認表によって事前準備の徹底やスムーズに作業が進行できるようになりました。

◆上記の学級の授業改善をととして、課題と成果について学部研究会の中で具体的に確認しました。授業改善シートや指導案を作成し、明確なねらいを設定することや評価の3観点を意識することができました。今後も教科のねらいや生徒の実態を踏まえた、より良い授業改善を進め、教育課程の改善を図っていく必要があることを報告しました。

青山先生からの指導助言

各学部の報告について、「目標と評価の一体化」「地域社会への移行」「小中高、地域社会への学びの連続性」「主体的、対話的で深い学び」「教科横断的な視点」「自立活動の充実」の6つの視点を中心に御助言をいただきました。

・遊びとしての自然な流れ、遊び・現実の必然性があることに価値がある。
・身近な人から評価されたと思えることが大切、身近でない人から評価されることは、モチベーションになる。自分自身で、「できた」と肯定感をもつことに加えて、身近な人、そうでない人から評価されることが重要である。地域社会との日常的な関わりがあれば、さらに発達の力を一歩あげるにも有効であると考えられる。
・枠組み、雰囲気づくり、環境づくりが大切である。報告、連絡、相談については、自己目的化していることで意味がある。他者との関係の中で、依存的になるのではなく、主体的であることが重要である。
・小学部では、主体的に「やりたい」「楽しい」というキーワードにわかって動ける、人と一緒に
中学部では、主体性、「うれしい」「もっとやりたい」達成感と充実感、人の役に立つ実生活に生きる技術
高等部では、世界を広げる、役割の意識、実生活に生きる知識と技能
が共通して実践されていた。

相馬 美加氏 御講演

府立宇治支援学校における「地域学習」について御紹介いただきました。

- ① 地域において働くこと・生活することを目指し、地域社会を学習環境と捉え、学習活動にこれらを積極的に取り入れた活動を展開
- ② 地域と協働した学習を進めること

これらが、児童生徒の生活の質を高め、よりよく生きる力の育成につながる、地域社会における障害のある児童生徒の理解を広げることにつながる、共生社会の形成に貢献するものと考え、ということを具体的な実践を交えて教えていただきました。

濱野 亜希子氏 御講演

あらぐさ福祉会の創設にあたっての歴史や背景から、「障害の重い方の社会貢献とは。」ということについての、お話を具体的にいただきました。誰もが認められ、生きがいをもてるということ、一人一人貢献の形は異なるということ、「生産性」だけでははかれないということ等、心に残るお言葉がたくさんありました。福祉と教育という異なる分野での現場ではあるけれど、大切にしたい視点や価値について共有することができたと感じました。それぞれが深く考えることのできる内容でした。

落合 俊郎氏 御講演

広島県立特別支援学校2校の取組や実践等について紹介していただきました。高等部の作業学習や食育の取組、地域と協働プロジェクトで連携されている取組についても具体的に学ばせていただきました。

分散会

テーマ「新学習指導要領の考え方や乙訓という地域性を基盤に、本校でつけた力を卒業後も自分らしく、自分なりに社会貢献しながら、主体的に幸せに生きるための育む授業とは。」

分散会では、①「自分なりに社会貢献する」ということをどう考えるか②「主体的に、幸せに生きるための力」とはどのような力か③そのためにどんな授業をしているか・授業改善をすすめてきたか・今後どのような授業をしたいか、の三本柱をテーマに交流しました。各グループでは様々な意見が出てきており、活発な交流をすることができました。それぞれのグループで出てきた意見を大きく分けると下記のようにまとめられました。

① 「自分なりに社会貢献する」ということをどう考えるか

- ・この世に生まれてきて、存在していること
- ・精一杯自分のもっている力を使って生活すること
- ・人との関わり、つながりのなかで周囲に与える影響
- ・共生社会の形成につながる影響 など

② 「主体的に、幸せに生きるための力」とはどのような力か

- ・コミュニケーションに関すること
- ・生活を楽しむことに関すること
- ・チャレンジ精神、生活を豊かにすることに関すること など

③ そのためにどんな授業をしているか・授業改善をすすめてきたか・今後どのような授業をしたいか

- ・人との関わり、地域社会との関わり、社会参加に関すること
- ・コミュニケーションに関すること
- ・成功体験や自信、評価される場面に関すること
- ・将来の視点
- ・授業改善の視点(主体的・対話的で深い学び) など

◎感想用紙より



「社会貢献」の形は様々である。人それぞれで「今できること」を精一杯していき、人・地域の中で支え、支えられる相互の関係の中でうまれてくる。「存在している」ことが全てであるように指導者だけでなく、児童生徒同士でも感じられるそのような授業を積み上げていきたい。



一人一人の良いところが学校生活の中でより育って、それが社会に出たときに発揮されたいと思う。



「人とのつながり」や「自他共に良さを認め合う」「主体的に」ということが共通してそれぞれが大切にしているということを分散会の中で出し合えた。

